ŌMIYA NEWS
No.83　2023年11月15日　JR東労組大宮地本

職場の奮闘をかえりみない経営姿勢を許さない！
全組合員と共に立ち向かう大宮地本見解を発出！

職場の奮闘をかえりみない「年末手当低額回答」の経営姿勢に対する怒りをバネに
現場第一主義で全組合員と共に未来へ立ち向かう大宮地本見解

2023年11月14日、中央本部は年末手当3.7ヶ月満額回答を求めて申10号「現場第一の姿勢で組合員・社員の努力に報い、モチベーションと生活の維持・向上の実現を求める年末手当に関する緊急申し入れ」交渉に臨んだ。しかし会社は第3回交渉の2.65ヶ月＋5万円という回答を再考するという姿勢は一切なく、全地本代表者会議の議論の結果、悔しいが妥結の判断に至った。中央本部は団体交渉で組合員と未加入者8,728件の声を集約して会社に訴えてきたが、会社は回答を覆すことはなかった。「最高の働き度」を悩み苦しみながら実践してきた現場の苦労が報われなかったことに「現場第一主義を尊重する」という会社回答を信用することは出来ない。

大宮地本はこの年末手当要求のたたかいにおいて、支払い能力は十分にあると分析し、中央本部が打ち出した要求の根拠や必要性を組合員や未加入者と議論してきた。各支部では独自に取り組みを展開し、私たちが求める要求額づくりや集会への結集、組合員メッセージ行動、本部激励行動など創造的に行ってきた。しかし11月10日の第3回交渉で示された会社回答の2.65ヶ月＋5万円という数字に私たちは絶句した。この会社回答の感想では「3ヶ月は出ると思った」「役員報酬は上げておいてこの数字はない」「会社の覚悟とは何を言われても出さないという覚悟のことか」「モチベーションなど上がらない」「離職が増える」など否定的意見が多く、「納得する・理解する」などという意見はほとんど無いのが現実である。この第3回交渉での会社回答を受けて、大宮地本として同日に「怒りの決起集会」を開催し、中央本部の交渉席上での緊急再申し入れ通告という重みを我がものとして、14日の緊急再申し入れ交渉までの短期間に637件の意見・感想を集約して中央本部に届けてきた。その多くは会社回答への否定であり、怒りの声である。交渉で会社は「納得しているという声が相当数ある」と回答したが、仮にそうであるならば一部の意見を優先するという意志の表れであり、私たちの声を何度も「受け止める」と言葉では言うがその姿勢を全く感じとることは出来ない。

今、職場では明らかに要員不足で発生している課題や、「会社に魅力を感じることが出来ずに離職する」「裏で不当労働行為が暗躍している」「社員を暴力やパワハラでねじ伏せる」など異常と言える多くの問題が発生している。そして「安全は経営のトッププライオリティ」という言葉とは裏腹に、これまで積み上げてきた安全風土が崩壊している事象が相次いで発生している。このことは「稼ぐ」を主眼に置いた経営姿勢が招いていると危惧する。労働組合として、収益優先・自己利益優先で現場の労働者が犠牲になることを見過ごすわけにはいかない。

大宮地本は11月14日に緊急全支部代表者会議を開催し、年末手当のたたかいについて総括してきた。会社への怒りも当然だが、一方で「今のこの会社姿勢をつくり出している私たちがいないか？」「是正していくために何が必要か？」を議論し、改めて組織強化・拡大と団結が必要不可欠という結論に至った。

年末手当2.65ヶ月＋5万円という低額回答で妥結する悔しさを組織の力に変えて、これ以上私たちの賃金を抑制させないために、そして明るく安心して働ける職場を再構築するために次なるたたかい・未来に向かうたたかいに決起する決意である。そのたたかいの全ては組織強化・組織拡大であることを全組合員に訴えて大宮地本執行委員会の見解とする。

2023年11月15日
東日本旅客鉄道労働組合
大宮地本執行委員会

低額回答への怒りをバネに、一方的な経営姿勢を許さず、組織強化・拡大で立ち向かい、新たなたたかいを創り出そう！